

Ⅱ 令和３年度 千葉県の実施結果

- 1 結果の概要
- 2 結果の詳細

1 結果の概要

(1) 教科に関する調査

①令和3年度教科区分別調査結果(平均正答数及び平均正答率)

※平均正答数及び平均正答率の上段(白)は、千葉県(千葉市を含む)、()内は、千葉県(千葉市を除く)
下段(網掛け)は、全国(公立)を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)	中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 〈全14問〉	9.0 (9.0)	65 (64)	国語 〈全14問〉	9.1 (9.0)	65 (64)
	9.1	64.7		9.0	64.6
算数 〈全16問〉	11.3 (11.2)	70 (70)	数学 〈全16問〉	9.0 (8.9)	56 (56)
	11.2	70.2		9.1	57.2

*文部科学省からの発表に基づき、平成28年度からは、県の平均正答率について、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

②問題形式別調査結果

※網掛けは、課題となる設問を示す。

※平均正答率が高いまたは低い設問と無解答率10%以上の設問の一部を抽出

※表中の「形式」において、選択式は「選」、短答式は「短」、記述式は「記」と表示している。

教科区分		全国との比較	問題番号	形式	問題の趣旨
小学校 国語	正答率	1.7ポイント高	2一	選	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する
		10.7ポイント高	3三(1)ウ	短	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
	無解答率	1.5ポイント低	2四	記	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する
		4.2ポイント低	3二	記	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する
小学校 算数	正答率	2.6ポイント高	2(1)	短	三角形の面積の求め方について理解している
		1.3ポイント高	2(2)	選	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる
	無解答率	1.1ポイント高	3(4)	記	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる
		1.4ポイント高	4(3)	記	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる
中学校 国語	正答率	1.5ポイント高	3一	選	文脈の中における語句の意味を理解する
		1.6ポイント高	4二	選	事象や行為などを表す多様な語句について理解する
		1.4ポイント低	2一	選	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く
中学校 数学	正答率	0.3ポイント高	3	選	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している
		0.8ポイント高	6(1)	短	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる
	無解答率	5.1ポイント高	6(3)	記	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる
		5.3ポイント高	8(3)	記	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

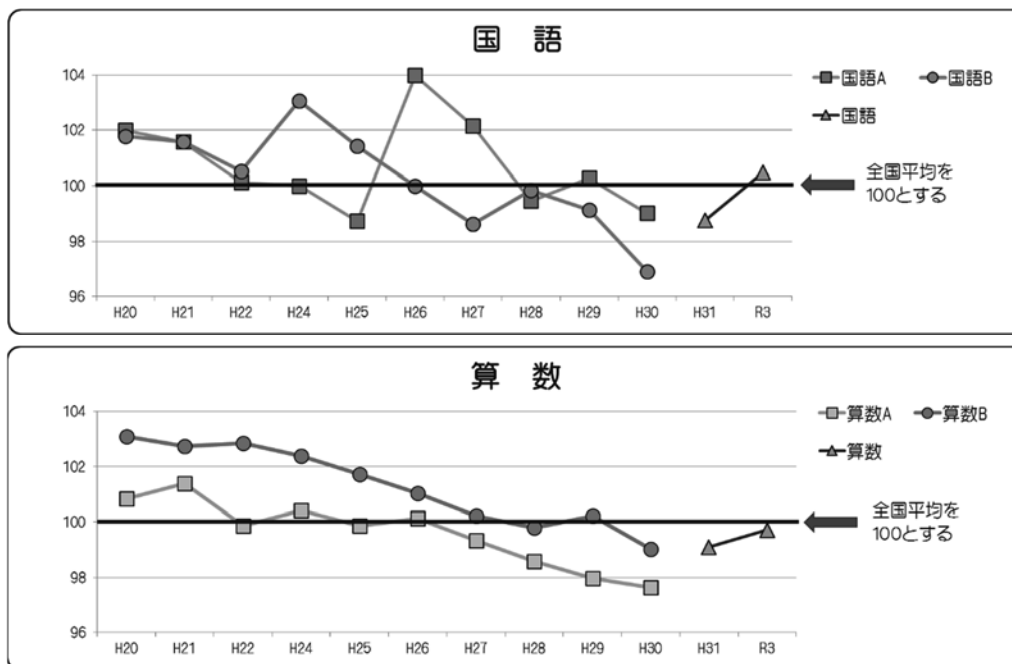
1 結果の概要

③学校種別・教科別の平均正答率(全国比)の経年変化

平成31年度の結果と比較すると、令和3年度の平均正答率は、全ての学校種・教科において、全国との差が改善されました。また、国語については、小学校、中学校ともに全国平均を上回りました。

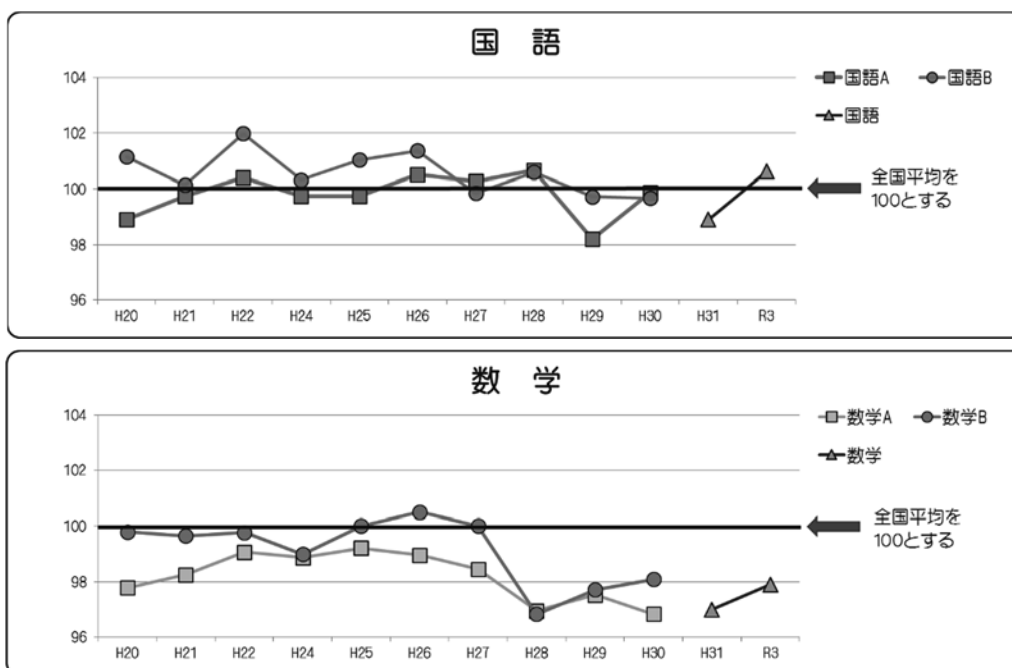
小学校における平均正答率の経年変化

※平成31年度（令和元年度）からは、A、B問題を一体化して出題



中学校における平均正答率の経年変化

※平成31年度（令和元年度）からは、A、B問題を一体化して出題



1 結果の概要

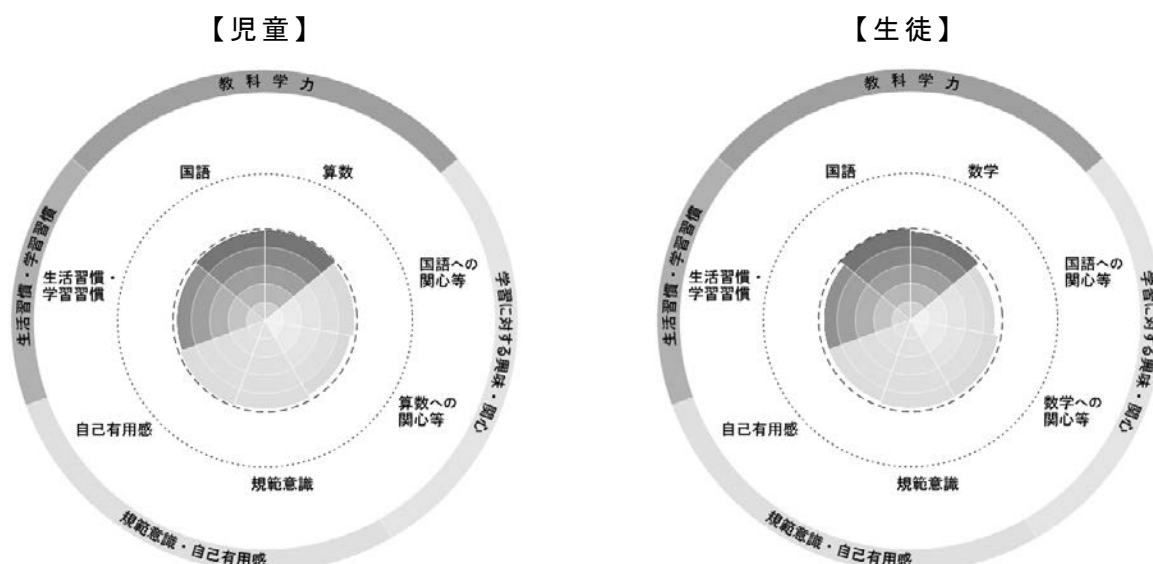
(2) 質問紙調査

※チャート図は、千葉県の実験結果について、全国を母集団として標準化したものである。内側の破線が全国平均を表している。
※◇は成果を、◆は課題を示している。

①児童生徒質問紙調査

千葉県は多くの項目で、肯定的な回答の割合が、全国に比べ低くなっている。
領域別に見ると、「国語への関心等」は、生徒の肯定的回答が全国に比べいずれの項目でも低く、「算数・数学への関心等」は、児童の肯定的回答が全国に比べいずれの項目でも低くなっている。「規範意識」は、児童生徒ともに全国に比べ低い項目が多くなっている。「自己有用感」は、生徒が全国に比べ低く、「生活習慣・学習習慣」は、児童生徒ともに全国に比べ全ての項目において低くなっている。

〈児童生徒質問紙調査と教科の結果〉



領域名		対応する質問番号	成果と課題
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	児生 43～46	◇「数学への関心等」は全国より高い項目がある。
	算数・数学への関心等	児生 52～55	◆「国語への関心等」「算数への関心等」は、児童生徒ともに、全国に比べ低い項目が多い。
規範意識・ 自己有用感	規範意識	児生 10～12	◇「規範意識」は、85%以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。
	自己有用感	児生 6、7	◆生徒の「自己有用感」は、全国に比べ低くなっている。
生活習慣・学習習慣		児生 1～3、17	◇「朝食を毎日食べている」の質問には、90%以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。 ◆「生活習慣」・「学習習慣」は、児童生徒ともに全国に比べ低くなっている。

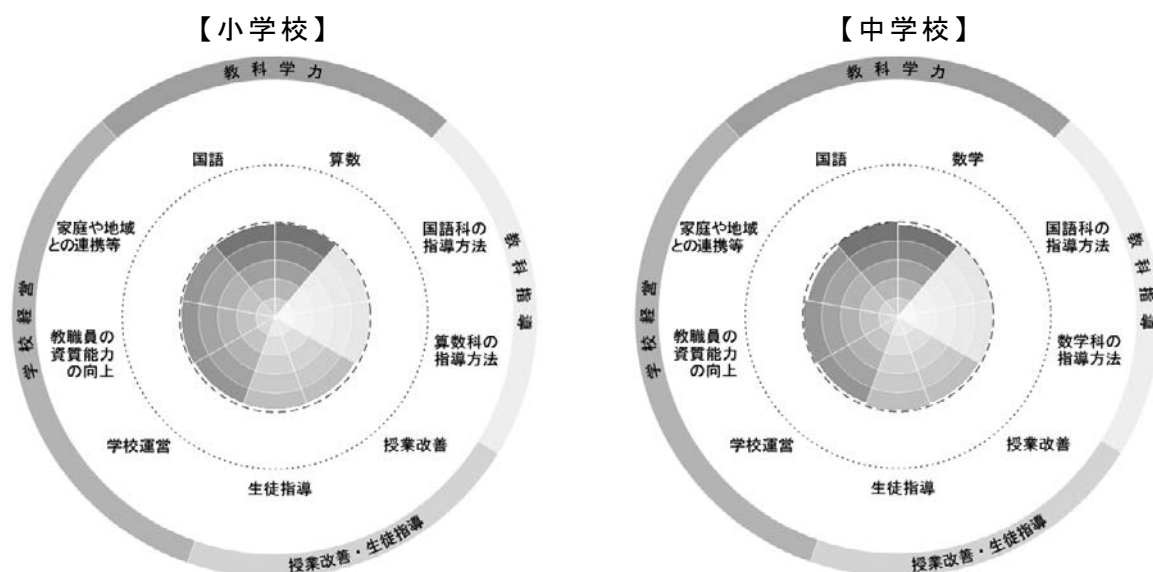
※表中の「対応する質問番号」において、児童質問紙は「児」、生徒質問紙は「生」と表示している。

1 結果の概要

②学校質問紙調査

千葉県は、多くの項目で肯定的な回答の割合が、全国に比べ低くなっている。
 領域別に見ると、「国語科の指導方法」は、小学校、中学校ともに全国に比べ高い項目があるが、「算数・数学の指導方法」は、全ての項目において小学校、中学校ともに全国に比べ低くなっている。「授業改善」は、全ての項目において小学校、中学校ともに全国に比べ低くなっている。「教職員の資質能力の向上」は、校内研修についての項目で小学校、中学校ともに全国に比べ低くなっているものが多い。「家庭や地域との連携」は、小学校は全国に比べ高い項目があるが、中学校は全ての項目において全国に比べ低くなっている。

〈学校質問紙調査と教科の結果〉



領域名		対応する質問番号	成果と課題
教科指導	国語科の指導方法	小中 49～54	◇国語の授業において、補充的・発展的な学習の指導を行った中学校の割合は全国に比べ高くなっている。 ◆国語の授業において、「目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業」を行った小学校、中学校の割合は全国に比べ低くなっている。 ◆算数の授業において「数量や図形について実感を伴った理解をする活動」を行った小学校と、「数学の授業において、数量や図形などの性質を見いだす活動」を行った中学校の割合が全国に比べ低くなっている。
	算数科・数学科の指導方法	小中 55～60	
授業改善・生徒指導	授業改善	小中 29、36、37	◇「授業中の私語が少なく、落ち着いている」と回答した中学校は全国に比べ高くなっている。 ◆「授業改善」に関する項目は、小学校、中学校ともに全国に比べ低くなっている。
	生徒指導	小中 7～11	
学校経営	学校運営	小中 16、18～21、91	◇「各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加」する教員の割合は、小学校、中学校とも全国に比べ高くなっている。 ◆全国学力・学習状況調査の結果を分析し、「具体的な教育指導の改善や指導計画等」へ反映させている割合は、小学校、中学校ともに全国に比べ低くなっている。 ◆「保護者や地域の人との協働による活動」を行ったと回答した割合は、小学校、中学校ともに全国に比べ低くなっている。
	教職員の資質能力の向上	小中 17、22～28	
	家庭や地域との連携等	小中 80～84	

※表中の「対応する質問番号」において、小学校質問紙は「小」、中学校質問紙は「中」と表示している。

2 結果の詳細

(1) 教科に関する調査

① 小学校国語

ア 平均正答率

▼：全国の平均正答率を下回るもの

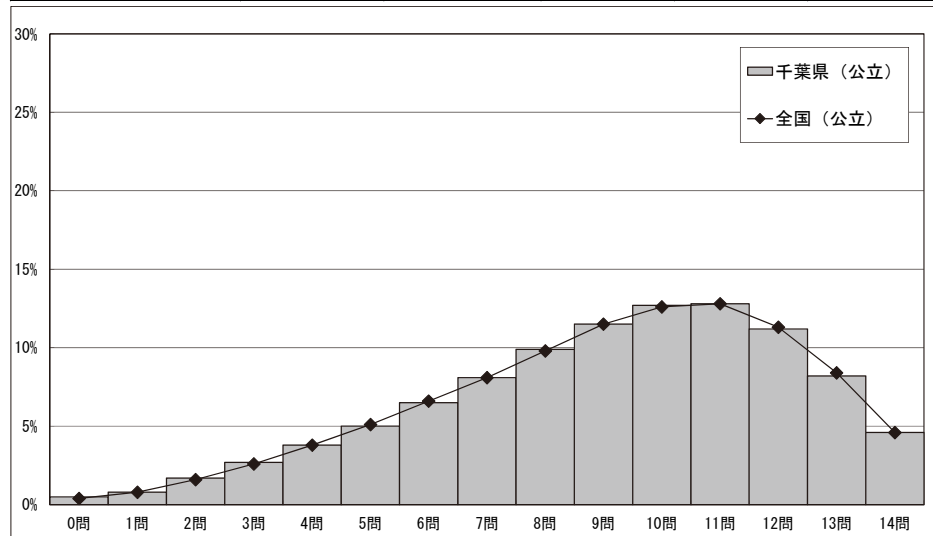
対象学校数		千葉県（公立）	全国（公立）	対象児童数	千葉県（公立）	全国（公立）
		756	18,857		49,600	993,975

分類		区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
				千葉県（公立）	全国（公立）
全体			14	65	64.7
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	68.9	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	▼77.6	77.8
		B 書くこと	2	▼58.4	60.7
		C 読むこと	3	▼46.8	47.2
評価の観点		知識・技能	6	68.9	68.3
		思考・判断・表現	8	▼61.3	62.1
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	8	▼71.2	71.7
		短答式	3	73.4	70.6
		記述式	3	▼37.9	40.2

イ 正答数の分布

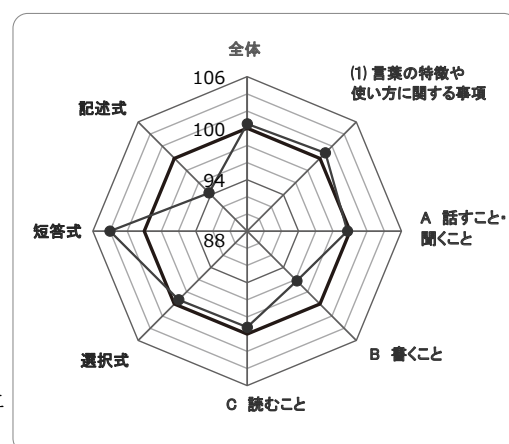
	児童数	平均正答数	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	49,600	9.0 / 14	65	9.0	3.1
全国（公立）	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1

横軸：正答数
縦軸：児童の割合



ウ 指数

※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。



小学校・国語		
	全体(活用)	100.5
領域	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	100.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	
	A 話すこと・聞くこと	99.7
問題形式	B 書くこと	96.2
	C 読むこと	99.2
	選択式	99.3
	短答式	104.0
	記述式	94.3

2 結果の詳細

Ⅰ 各設問の結果

※ : 課題となるもの

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						問題形式	正答率(%)			無解答率(%)				
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等				千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差		
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと									
1ー	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える				5 6 イ			思 判 表	選 択	76.6	77.5	-0.9	0.3	0.3	0.0	
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する				5 6 ウ			思 判 表	選 択	75.1	74.9	0.2	0.5	0.4	0.1	
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の「」の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す				5 6 ウ			思 判 表	選 択	81.1	81.0	0.1	0.5	0.4	0.1	
2ー	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する						5 6 ア	思 判 表	選 択	79.3	77.6	1.7	0.4	0.4	0.0	
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	5 6 オ						知 技	選 択	87.4	87.5	-0.1	0.4	0.3	0.1	
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける						5 6 ウ	思 判 表	記 述	33.0	34.4	-1.4	4.3	4.1	0.2	
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する						3 4 ウ	思 判 表	記 述	28.2	29.7	-1.5	5.9	5.5	0.4	
3ー	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える						5 6 イ	思 判 表	選 択	64.3	64.8	-0.5	2.2	2.1	0.1	
3二	丸山さんの【文章の下書き】の「」部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する						5 6 ウ	思 判 表	記 述	52.4	56.6	-4.2	10.1	9.6	0.5	
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の「」部アを、漢字を使って書き直す(こががっている)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5 6 エ						知 技	短 答	78.9	78.3	0.6	9.8	8.8	1.0	
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「」部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)		5 6 エ							知 技	短 答	65.1	54.4	10.7	11.7	14.4	-2.7
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「」部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)		5 6 エ							知 技	短 答	76.1	79.0	-2.9	7.2	6.6	0.6
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「」部イで、「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係をつかめる	3 4 力						知 技	選 択	63.7	67.0	-3.3	3.8	3.8	0.0	
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の「」部オで、「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係をつかえる	3 4 力						知 技	選 択	42.1	43.6	-1.5	4.0	4.1	-0.1	

※評価の観点について 「知識・技能」:「知技」
「思考・判断・表現」:「思判表」

2 結果の詳細

才 課題のある設問

3二 (趣旨) 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

(学習指導要領)〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等 B 書くこと ウ

全国と千葉県との比較

正答率(%)	
全 国	56.6
千葉県	52.4
自 校	

無解答率(%)

全 国	9.6
千葉県	10.1
自 校	

(正答例)

○「そうじたん当の人などがたづねればよい」という考えに反対する意見と、その理由を書くこと。
 ○「西田さんの話」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○六十文字以上、百字以内で書くこと。

〔西田さんの話〕(遊具置き場のそうじ担当)

毎日、そうじ担当が協力して遊具をかたづけています。でも、そのために時間が足りなくなってしまう。はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。

〔条件〕

○「そうじたん当の人などがたづねればよい」という考えに反対する意見と、その理由を書くこと。
 ○「西田さんの話」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○六十文字以上、百字以内で書くこと。

〔丸山さんの話〕

三 丸山さんは、――部の「そうじたん当の人などがたづねればよい」と考える人を説得するために、「西田さんの話」を用いて「文章の下書き」の……部をくわしく書き直そうとしています。あとの条件に合わせて書きましよう。

誤答を解答類型別にみてみましょう！

* 下の3つは条件③を満たしているかどうかは不問とする
 * 条件については「報告書」小学校国語 P.45 参照

	解 答 類 型	反 応 率 (%)
3	条件①a(意見)、①b(理由)の両方は満たしているが、②は満たしていないもの 【西田さんの話】を用いて 詳しく書き直そうとしている丸山さんの意図を捉えることができていないと考えられます。	全 国 12.0 千葉県 11.2 自校 ()
4	条件①a(意見)、②は満たしているが、①b(理由)は満たしていないもの 詳しく書き直すために、 反対する理由を明確にして 書こうとしている丸山さんの意図を捉えることができていないと考えられます。	全 国 11.8 千葉県 14.2 自校 ()
5	条件①a(意見)は満たしているが、①b(理由)、②は満たしていないもの 詳しく書き直すために、 【西田さんの話】を用いながら、反対する理由を明確にして 書こうとしている丸山さんの意図を捉えることができていないと考えられます。	全 国 7.3 千葉県 9.2 自校 ()

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように詳しく書く力を付けるには

- 「自分の考え」
- 「(自分の考えを支える) 理由」
- 「(客観的な事実裏付けられた) 事例」

これらの関係性が明確かを確かめ、
自分の考えを深めることができる
 ように指導すると効果的です！

2 結果の詳細

オ 課題のある設問

3三(2)イ オ (趣旨) 文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えることができるかどうかをみる。

(学習指導要領)〔第3学年及び第4学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 カ

(2)
イ

全国と千葉県との比較

正答率(%)

全 国	67.0
千葉県	63.7
自 校	

4 かたづけられずに

③ 一輪車が

2 使っていた

1 みんなが

イ「残されています」の主語として適切なもの
イ時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。

(2) 丸山さんは、——部イとオについて、言葉の使い方を確認しています。

三 丸山さんは、「文章の下書き」を読み返しています。次の(2)の問いに答えましょう。

主語と述語との関係を捉えることに課題！

【解答類型4】主語が文の中で「何が／だれが」を表す言葉であることを理解できていない。

解答 類型	反応率(%)		
	全 国	千葉県	自 校
1	4.6	5.0	
2	4.0	4.8	
4	20.3	22.5	

(2)
オ

全国と千葉県との比較

正答率(%)

全 国	43.6
千葉県	42.1
自 校	

4 むずかしい

③ かたづける

2 遊具を

1 遊び終わったら

オ「すぐに」はどの言葉をくわしくしているか
オ その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。

修飾と被修飾の関係を捉えることに課題！

【解答類型1】文の中でどの語句に係るかを理解できていない。

解答 類型	反応率(%)		
	全 国	千葉県	自 校
1	30.1	31.0	
2	18.7	19.7	
4	3.3	3.0	

主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解するには

- 主語と述語、修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整える
- 読み手の立場で、主語を省略せずに示す、主語と述語のねじれがないかチェックする
- 修飾語は離れた語句を修飾する場合があることも理解できるようにする



「B書くこと」の「推敲」との関連を図ることも効果的です！

2 結果の詳細

(1) 教科に関する調査

② 中学校国語

ア 平均正答率

▼：全国の平均正答率を下回るもの

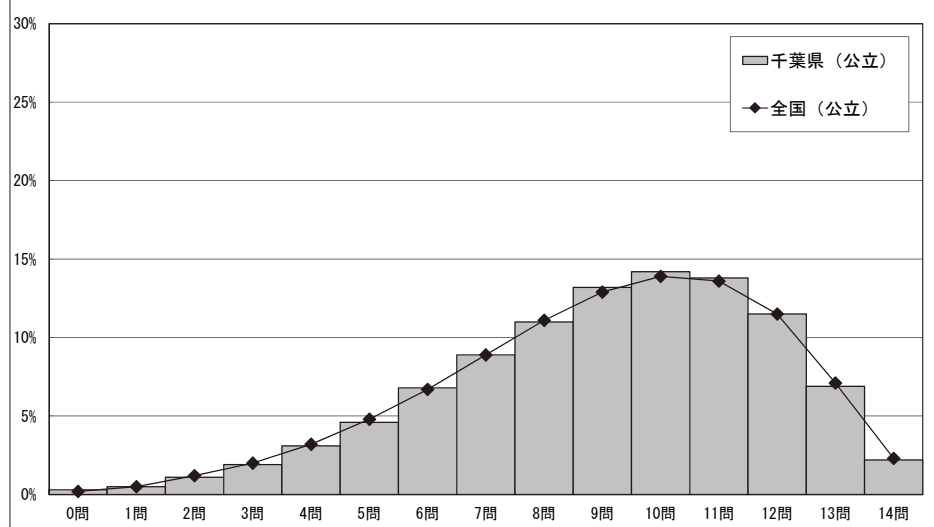
対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	千葉県（公立）	全国（公立）
	363	9,319		44,577	903,157

分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体		14	65	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	79.9	79.8
	書くこと	3	▼56.2	57.1
	読むこと	4	49.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	▼74.7	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.0	56.0
	話す・聞く能力	3	79.9	79.8
	書く能力	3	▼56.2	57.1
	読む能力	4	49.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	▼74.7	75.1
問題形式	選択式	6	64.5	63.9
	短答式	4	▼73.7	74.4
	記述式	4	56.0	56.0

イ 正答数の分布

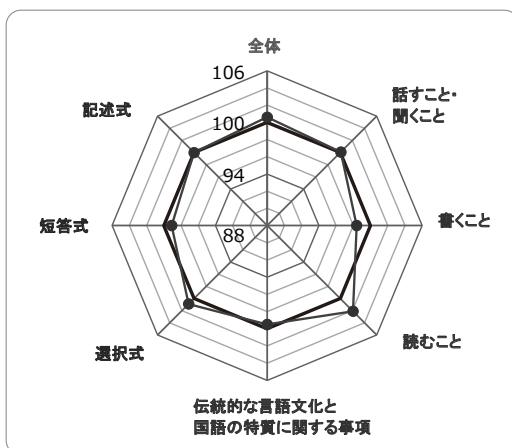
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	44,577	9.1 / 14	65	9.0	2.8
全国（公立）	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8

横軸：正答数
縦軸：生徒の割合



ウ 指数

※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。



中学校・国語		
	全体(活用)	指数
領域	話すこと・聞くこと	100.1
	書くこと	98.4
	読むこと	102.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	99.5
問題形式	選択式	100.9
	短答式	99.1
	記述式	100.0

2 結果の詳細

Ⅰ 各設問の結果

※ : 課題となるもの

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝達的な言語文化と国語の特質に関する事項			千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1才				話聞	選択	89.9	89.7	0.2	0.3	0.2	0.1
1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1工				話聞	選択	92.7	92.5	0.2	0.4	0.2	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1才				関意話聞	記述	57.2	57.1	0.1	4.1	3.4	0.7
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く		2工			書	選択	23.4	24.8	-1.4	0.3	0.3	0.0
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える		2才			関意書	記述	73.0	74.5	-1.5	9.8	8.5	1.3
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア		読	選択	45.2	43.7	1.5	0.4	0.4	0.0
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ		読	選択	60.1	58.7	1.4	0.5	0.4	0.1
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ		読	短答	71.3	71.0	0.3	8.1	7.3	0.8
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			1才		関意読	記述	21.7	20.5	1.2	26.1	24.1	2.0
4一①	漢字を読む(伸ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む				2(1)ウ(7)	言語	短答	97.3	97.5	-0.2	1.6	1.5	0.1
4一②	漢字を読む(詳細)					2(1)ウ(7)	言語	短答	88.7	88.8	-0.1	2.4	2.3	0.1
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する				1(1)イ(7)	言語	選択	75.6	74.0	1.6	1.2	1.1	0.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う				2(1)イ(7)	言語	短答	37.4	40.3	-2.9	2.2	1.7	0.5
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く		2ウ			関意書	記述	72.1	71.9	0.2	10.0	9.7	0.3

※評価の観点について

「国語への関心・意欲・態度」:「関意態」
「話す・聞く能力」:「話聞」
「書く能力」:「書」
「読む能力」:「読」
「言語についての知識・理解・技能」:「言語」

2 結果の詳細

才 課題のある設問

3 四 (趣旨) 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

(学習指導要領)〔第1学年〕C 読むこと 才

全国と千葉県との比較

正答率(%)	
全 国	20.5
千葉県	21.7
自 校	

無解答率(%)	
全 国	24.1
千葉県	26.1
自 校	

3 文学的な文章を読む(「吾輩は猫である」)

引用と、引用から分かること

自分の考え +

【解答類型1】(正答)

「吾輩」は「黒」を「はなはだ御しやすい猫」と評価しており、単純で扱いやすいと思いつながり接している。「黒」とどのように接したら面倒なことにならないかを考えている感じがして、とても感心した。

条件1 「文章の一部」から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書くこと。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

四 (「紹介」に「様々に評価する」とありますが、「文章の一部」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

正答率がとても低いことと、無解答率が高いことが課題!

誤答を主な解答類型別にみてみましょう!

	解 答 類 型	反 応 率 (%)
2	「吾輩」の「黒」への接し方について、 自分の考えを具体的に示すことができていない。	全 国 2.1 千葉県 2.1 自校 ()
3	引用した表現から「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを示すことができていない。	全 国 0.3 千葉県 0.3 自校 ()
4	「黒」を評価している表現を 適切に引用していない 、または 引用していない 。	全 国 44.6 千葉県 42.6 自校 ()

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつには

「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して**理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりする。**



その上で、改めて**自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返る**ことで自分の考えを確かなものにする。

2 結果の詳細

才 課題のある設問

4 三 (趣旨) 相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかどうかをみる。

(学習指導要領)〔第2学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ(ア)

全国と千葉県との比較

正答率(%)	
全 国	40.3
千葉県	37.4
自 校	

無解答率(%)	
全 国	1.7
千葉県	2.2
自 校	

4 電子メールを書く(焼き物作りの体験)

【総合的な学習の時間における学習で焼き物作りの体験についてメールで問い合わせしている場面】
○生徒が相手の所(焼き物館)へ出かけていく設定である。「行く」を適切な敬語(この場面では謙譲語)に書き直すことが求められている。

宛先: ふるさと焼き物館 前田 花子 様
件名: Re: Re: 焼き物作りの体験について
2021/05/14
第一中学校の青木です。ご返信くださりありがとうございます。
希望のコースと人数ですが、Aコース2名、Bコース2名でお願いたします。当日は開始時刻の10分前に行く予定です。
なお、

1 尊敬語	(敬語の種類) 何う	(敬語の種類) 2	(敬語の種類) 2	(敬語の種類) 2
2 謙譲語	(敬語の種類) 2	(敬語の種類) 2	(敬語の種類) 2	(敬語の種類) 2
3 丁寧語	(敬語の種類) 2	(敬語の種類) 2	(敬語の種類) 2	(敬語の種類) 2
(解答類型1) 35.3%	(解答類型2) 5.6%	(解答類型2) 5.6%	(解答類型2) 5.6%	(解答類型2) 5.6%

三 線部④「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類を次の1から3までの中から一つ選びなさい。
書き手が送る二回目のメールの下書き

誤答を主な解答類型別にみてみましょう！

解 答 類 型		反 応 率 (%)
3	「行く」を適切な敬語に直しているが、その敬語が謙譲語であることが理解できていない。	全 国 16.7 千葉県 16.5 自校 ()
4	相手や場に応じて謙譲語を用いることが適切であることは理解しているが、具体的な言葉を書くことができていない。	全 国 16.5 千葉県 18.0 自校 ()
99	尊敬語と謙譲語の使い分けができていない。	全 国 24.8 千葉県 26.0 自校 ()

H30 小学校国語A7においても敬語の使い方が課題となった。
(正答率 全国 56.3% 千葉県 55.8%)

相手や場に応じて敬語を適切に使うには

- 小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する。
- その際、公的な場面で改まった言葉遣いをするもののほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどにも留意するように指導する。

2 結果の詳細

(1) 教科に関する調査

③小学校算数

ア 平均正答率

▼：全国の平均正答率を下回るもの

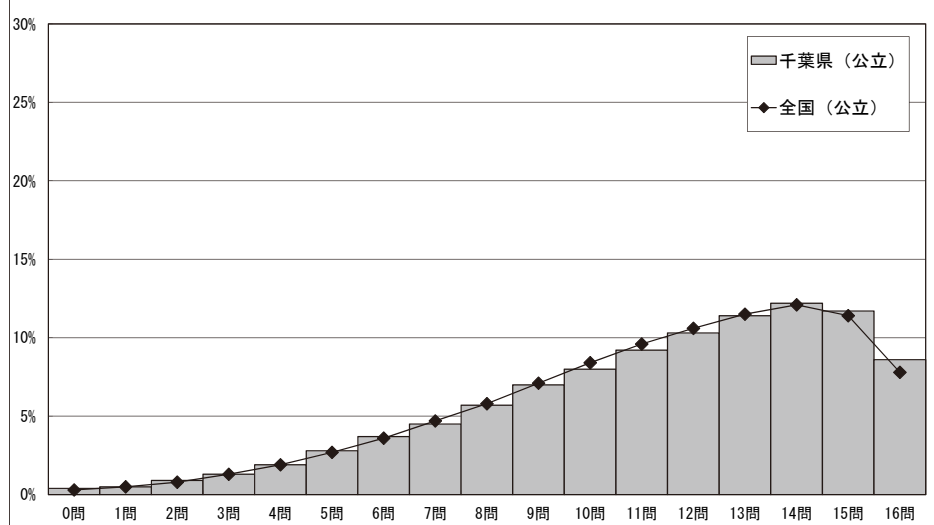
対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象児童数	千葉県（公立）	全国（公立）
	756	18,854		49,592	994,101

分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体		16	▼ 70	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	▼62.9	63.1
	B 図形	3	59.0	57.9
	C 測定	3	▼74.6	74.8
	C 変化と関係	3	76.3	75.9
	D データの活用	5	76.0	76.0
評価の観点	知識・技能	9	74.8	74.1
	思考・判断・表現	7	▼64.8	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	76.4	76.0
	短答式	6	76.5	75.8
	記述式	4	▼52.3	53.0

イ 正答数の分布

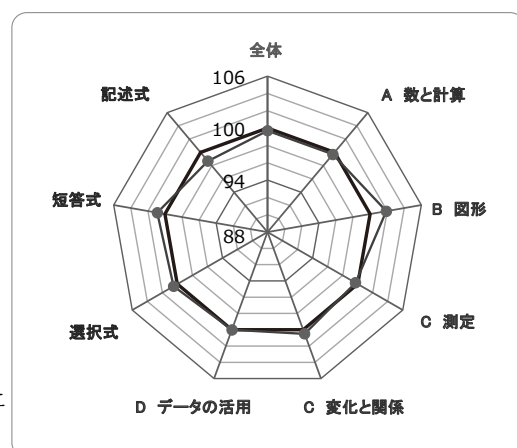
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	49,592	11.3 / 16	70	12.0	3.5
全国（公立）	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

横軸：正答数
縦軸：児童の割合



ウ 指数

※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。



小学校・算数		
領域	全体(活用)	99.7
	A 数と計算	99.7
	B 図形	101.9
	C 測定	99.7
	C 変化と関係	100.5
	D データの活用	100.0
問題形式	選択式	100.5
	短答式	100.9
	記述式	98.7

2 結果の詳細

Ⅰ 各設問の結果

※ : 課題となるもの

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用			千葉県 (公立)	全国 (公立)	全国との差	千葉県 (公立)	全国 (公立)	全国との差
1 (1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1(2) ア(イ) 3(2) ア(イ) *		2(1) ア(ア)			思 判 表	記 述	60.6	62.5	-1.9	1.8	1.7	0.1
1 (2)	500mを歩くのに7分かか ることを基に、1000mを歩 くにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる				5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)		思 判 表	短 答	86.9	86.7	0.2	1.9	1.7	0.2
1 (3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している				5(2) ア(ア)		知 技	選 択	56.3	55.8	0.5	1.6	1.4	0.2
1 (4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる			3(2) ア(イ)			知 技	短 答	89.5	89.2	0.3	0.8	0.7	0.1
1 (5)	分速540mのバスが2700mを進むにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる				5(2) ア(ア)		知 技	短 答	85.9	85.1	0.8	1.6	1.5	0.1
2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している		5(3) ア(ア)				知 技	短 答	57.7	55.1	2.6	1.6	1.6	0.0
2 (2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる		5(3) ア(ア)	1(1) ア(イ)			知 技	選 択	73.8	72.5	1.3	1.1	1.0	0.1
2 (3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方捉えて、面積の求め方と答えを記述できる		5(3) ア(ア) *				思 判 表	記 述	45.4	46.0	-0.6	4.8	4.6	0.2
3 (1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる					3(1) ア(イ)	知 技	選 択	95.7	95.8	-0.1	0.4	0.4	0.0
3 (2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる					3(1) ア(イ)	知 技	選 択	90.4	90.7	-0.3	0.4	0.4	0.0
3 (3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる					4(1) ア(ア)	知 技	選 択	67.7	67.5	0.2	1.9	1.7	0.2
3 (4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる					5(1) ア(ア) *	思 判 表	記 述	51.7	52.0	-0.3	11.4	10.3	1.1
3 (5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる					5(1) ア(イ) *	思 判 表	選 択	74.5	73.9	0.6	1.4	1.3	0.1
4 (1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	3(4) ア(ア) イ(イ)					思 判 表	短 答	83.0	83.0	0.0	1.8	1.7	0.1
4 (2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる		4(4) ア(エ)				知 技	短 答	56.2	55.5	0.7	2.0	2.0	0.0
4 (3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	4(4) ア(ア) *					思 判 表	記 述	51.7	51.5	0.2	11.7	10.3	1.4

※評価の観点について 「知識・技能」:「知技」
「思考・判断・表現」:「思判表」

*本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

2 結果の詳細

オ 課題のある設問

3(4) (趣旨) 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

(学習指導要領)〔第5学年〕D データの活用 (1) ア (ア)、内容の取扱い (5)

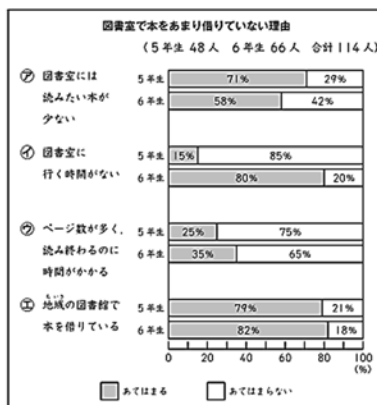
全国と千葉県との比較

正答率(%)

全 国	52.0
千葉県	51.7
自 校	

無解答率(%)

全 国	10.3
千葉県	11.4
自 校	



ひよりさんたちは、左のグラフをもとに、気づいたことについて話合っています。

そうたさんとあやのさんは、左のグラフの中の②から⑧までの4つの項目について、「あてはまる」と答えた人の割合に着目しました。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらいの項目があります。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目もありますね。

左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何ですか。

項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

(正答例) 5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目は、④図書室に行く時間がないです。5年生が15%で、6年生が80%です。

誤答を解答類型別にみてみましょう！

<正答の条件> 次の①、②、③の全てを書いている。

① 「④ 図書室に行く時間がない」を表す言葉や記号

② 「④ 図書室に行く時間がない」について、5年生の「あてはまる」と答えた人の割合を表す数

③ 「④ 図書室に行く時間がない」について、6年生の「あてはまる」と答えた人の割合を表す数

	解 答 類 型	反 応 率 (%)
5	①を書いているもの 5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが、一番大きい項目は記述できているが、割合について、 5年生と6年生の合計の人数を基にしたときの5年生の人数の割合及び6年生の人数の割合を求めようとしている と考えられます。	全 国 8.9 千葉県 8.6 自校 ()
8	「エ 地域の図書館で本を借りている」を表す言葉や記号を書いているもの 5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の 割合の違いが一番大きい項目を 、5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の 割合が大きい項目と捉えている と考えられます。	全 国 14.6 千葉県 14.3 自校 ()

自分たちが出した結論について多面的に捉え、考察できるようにするには

集めたデータを分析する

- 「データの種類や項目の数」
- 「目的に応じ、適切なグラフを用いて表現」
- 「データの特徴や傾向を捉え、結論について判断」



複数のデータから項目間の違いに着目し、データの特徴や傾向を読み取ることができるよう指導する！

2 結果の詳細

才 課題のある設問

4(3) (趣旨) 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

(学習指導要領)〔第4学年〕A 数と計算 (4) ア (ア)

全国と千葉県との比較

正答率(%)	
全 国	51.5
千葉県	51.7
自 校	

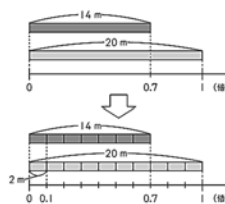
無解答率(%)	
全 国	10.3
千葉県	11.7
自 校	

(3) 14 m のテープと 20 m のテープがあります。
こはるさんたちは、14 m は 20 m の何倍かについて考えています。

こはる $14 \div 20 = 0.7$ で、0.7 倍です。0.7 倍というのは、20 m を1としたとき、14 m が0.7にあたることを表していましたね。

れん 20 m を1としたとき、14 m が半分に0.7にあたるのかな。

れんさんの話を聞いて、ゆうまさんは、20 m を1としたときに14 m が0.7にあたるわけについて、20 m を10等分した1つ分の長さが0.1にあたることをもとにして考え、下の図を書いて説明しました。



【ゆうまさんの説明】

ゆうま 20 m を1としたとき、0.1にあたる長さ2 m です。
14 m は、2 m の7つ分になるので、20 m を1としたときの0.7にあたる長さです。

12 m のテープと 30 m のテープがあります。
たくみさんたちは、12 m は 30 m の何倍かについて考えています。

たくみ $12 \div 30 = 0.4$ で、0.4 倍です。

さくら 30 m を1としたとき、12 m が半分に0.4にあたるのかな。

30 m を1としたときに12 m が0.4にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



(正答例) 30mを1としたとき、0.1にあたる長さは3 mです。
12mは、3 mの4つ分になるので、30mを1としたときの0.4にあたる長さです。

誤答を解答類型別にみてみましょう！

<正答の条件> 次の①、②の全てを書いている。

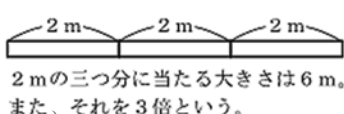
- ① 0.1にあたる長さが3 mであることを表す言葉や数
- ② 12mは3 mの四つ分になることを表す言葉や数

基準量を1としたときに比較量がいくつに当たるかという意味について理解できるようにすることが大切

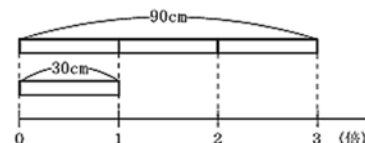
解答類型	反応率(%)
2 (解答例) 30mを1としたとき、0.1にあたる長さは3 mです。だから、0.4にあたります。 30mを1としたとき、0.1にあたる長さが3 mになることは記述できているが、 12mは3 mのいくつ分に当たるかについては記述できていない。	全 国 10.8 千葉県 10.5 自校 ()
8 (解答例) 30mを1としたとき、0.4にあたる長さは12mです。 30mを基にしているが、 0.1にあたる長さが3 mになることと、12mは3 mの四つ分になることは記述できていない。	全 国 8.9 千葉県 8.1 自校 ()

倍の意味について捉え直し、小数を用いた場合も、倍の意味を理解できるようにするには

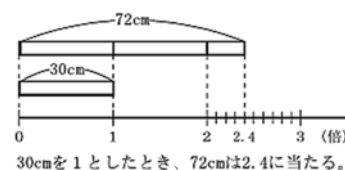
図などを用いて、もとにする大きさを意識できるようにする



「いくつ分」を「何倍」とみる。



基準量を1としたときに比較量がいくつに当たるかを求める。



倍が整数で表せない場合は、基準となる1に対する大きさを10等分し、0.1にあたる大きさを用いて、いくつに当たるかで倍を表すことができる。

2 結果の詳細

(1) 教科に関する調査

④中学校数学

ア 平均正答率

▼：全国の平均正答率を下回るもの

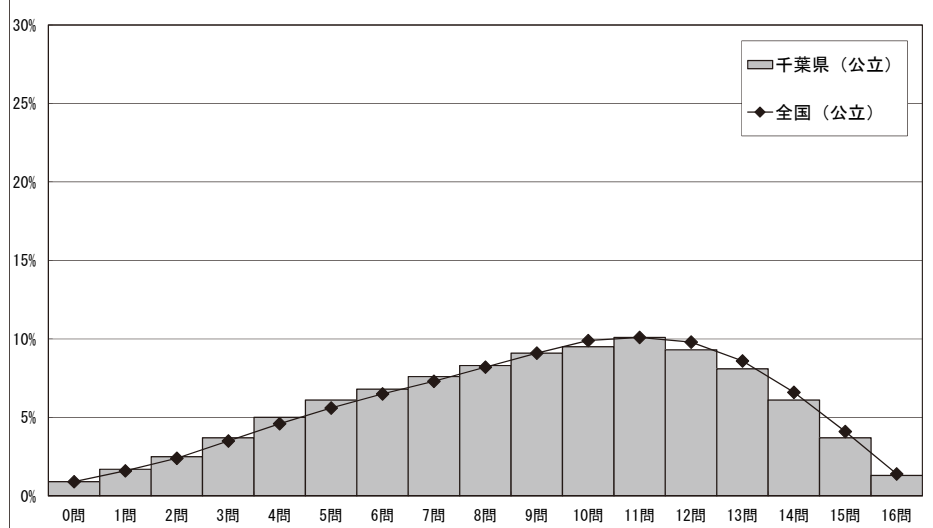
対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	千葉県（公立）	全国（公立）
	363	9,316		44,574	903,253

分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体		16	▼ 56	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	▼64.0	64.9
	図形	4	▼51.1	51.4
	関数	3	▼55.0	56.4
	資料の活用	4	▼51.8	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	7	▼40.4	41.1
	数学的な技能	3	▼76.2	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	▼64.2	65.6
問題形式	選択式	2	▼51.3	52.4
	短答式	9	▼69.4	70.5
	記述式	5	▼33.8	35.0

イ 正答数の分布

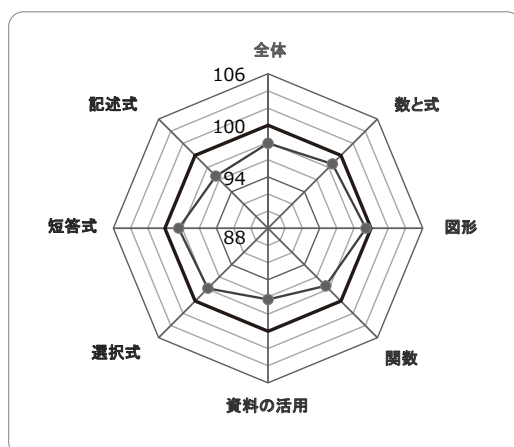
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	44,574	9.0 / 16	56	9.0	3.7
全国（公立）	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7

横軸：正答数
縦軸：生徒の割合



ウ 指数

※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。



中学校・数学		
	全体(活用)	97.9
領域	数と式	98.6
	図形	99.4
	関数	97.5
	資料の活用	96.3
問題形式	選択式	97.9
	短答式	98.4
	記述式	96.6

2 結果の詳細

Ⅰ 各設問の結果

※ : 課題となるもの

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価 の観点	問題 形式	正 答 率 (%)			無 解 答 率 (%)		
			数 と式	図 形	関 数	資料 の活用			千 葉 県 （公立）	全 国 （公立）	全 国 との 差	千 葉 県 （公立）	全 国 （公立）	全 国 との 差
1	$(5x+6y)-(3x-2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2 (1) ア				技能	短 答	75.5	77.1	-1.6	1.0	0.8	0.2
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくること ができる	1 (3) ウ				技能	短 答	70.0	71.3	-1.3	8.7	7.6	1.1
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している		1 (2) ウ			知理	選 択	68.4	68.1	0.3	0.4	0.3	0.1
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している			1 (1) ア		知理	短 答	46.3	48.0	-1.7	11.5	9.3	2.2
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる				1 (1) ア	技能	短 答	83.1	84.5	-1.4	1.2	1.0	0.2
6 (1)	四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2 (1) イウ				見考	短 答	84.7	83.9	0.8	3.7	3.5	0.2
6 (2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2 (1) イウ				見考	記 述	60.2	61.8	-1.6	17.3	15.4	1.9
6 (3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2 (1) イウ				見考	記 述	29.5	30.3	-0.8	35.0	29.9	5.1
7 (1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1 (1) ウ		知理	短 答	93.5	93.5	0.0	2.1	2.0	0.1
7 (2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1 (1) エオ		見考	記 述	25.2	27.7	-2.5	28.6	24.7	3.9
8 (1)	気温差が 9°C 以上 12°C 未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる				1 (1) ア	知理	短 答	79.7	83.0	-3.3	5.2	4.2	1.0
8 (2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している				1 (1) ア	知理	選 択	34.2	36.8	-2.6	1.1	1.0	0.1
8 (3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる				1 (1) イ	見考	記 述	10.3	11.1	-0.8	37.5	32.2	5.3
9 (1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる		2 (2) イウ			見考	記 述	43.9	44.3	-0.4	3.8	3.6	0.2
9 (2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している		2 (1) ア			知理	短 答	63.1	64.3	-1.2	15.5	14.2	1.3
9 (3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる		2 (1) ア			見考	短 答	28.9	28.8	0.1	32.8	28.7	4.1

※評価の観点について

「数学的な見方や考え方」:「見考」

「数学的な技能」:「技能」

「数量や図形などについての知識・理解」:「知理」

2 結果の詳細

オ 課題のある設問

7(2) (趣旨) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

(学習指導要領)〔第1学年〕C 関数 (1)エ、オ

全国と千葉県との比較

正答率(%)	
全 国	27.7
千葉県	25.2
自 校	

無解答率(%)

全 国	24.7
千葉県	28.6
自 校	

(2) 健斗さんは、2分をはかるために、秒時計に必要な砂の重さを調べます。

そこで、調べた結果のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、砂の重さが増えてもすべての点と同じ直線上にあると考えることにしました。

このとき、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に必要な砂の重さを求める必要はありません。



数学的に考察する場合でのアプローチの方法や手順を説明する問題

→構想を立てたり、それを評価・改善したりする力をみる

方法や手順を的確に表現

→用いるもの(表、式、グラフ)

使い方(x と y の関係式にある値を代入して求めるなど)

正答の条件を主な解答類型別にみましょう!

解 答 類 型		反 応 率 (%)
1	<グラフを用いることについて記述している場合> 次の(a)、(b)について記述している。	全 国 6.6
2	(a) 直線のグラフをかいて利用すること。 <u>用いるもの</u> (b) y 座標が120のときの x 座標を読むこと。 <u>用い方</u>	千葉県 5.1 自校 ()
5	<式を用いることについて記述している場合> 次の(c)、(d)について記述している。	全 国 5.8
6	(c) 比例の式又は一次関数の式を求めて利用すること。 <u>用いるもの</u> (d) $y=120$ を代入して、 x の値を求めること。 <u>用い方</u>	千葉県 6.5 自校 ()
9	<表の数値を用いることについて記述している場合> 次の(e)、(f)について記述している。	全 国 15.3
10	(e) 表や数値を用いて割合を求めて利用すること。 <u>用いるもの</u> (f) 砂が落ちきるまでの時間が120秒になる砂の重さを算出すること。 <u>用い方</u>	千葉県 13.6 自校 ()

得られたデータを理想化したり単純化したりして、その特徴を的確に捉えるには

理想化→表や数値を用いて求めた割合が一定であると考え

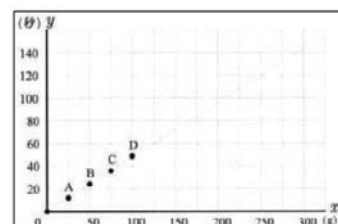
砂の重さ x (g)	0	25	50	75	100
砂が落ちきるまでの時間 y (秒)	0	11.9	24.2	36.0	48.3
		+11.9	+12.3	+11.8	+12.3

およそ12ずつ増えている。

x の値が25ずつ増えるごとに、 y の値はおよそ12ずつ増えているね。

x の値が2倍、3倍になると y の値も2倍、3倍になっているとみることができるよ。

単純化→座標平面上に表された点が原点を通る一直線上にあると考える



グラフは原点を通る直線とみることができそうだね。

2 結果の詳細

才 課題のある設問

8(3) (趣旨) データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

(学習指導要領)〔第1学年〕D 資料の活用 (1) イ

全国と千葉県との比較

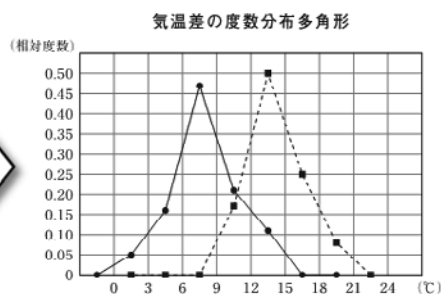
正答率(%)

全 国	11.1
千葉県	10.2
自 校	

無解答率(%)

全 国	32.2
千葉県	37.5
自 校	

(3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



根拠

成り立つ事柄

<正答例>

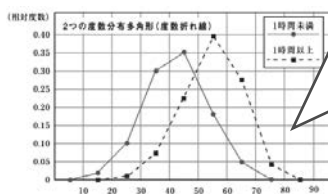
二つの度数分布多角形が同じような形で、6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にある。したがって、日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある。

誤答を主な解答類型別にみてみましょう！

解答類型	反応率(%)
99 横軸を気温と捉えており、日照時間が6時間以上の方が6時間未満よりも気温が高いことから気温差が大きい傾向にあることを説明しようとしていたと考えられる。 特徴(形や位置関係、分布の特徴)を読み取れない	全 国 31.6 千葉県 30.1 自校 ()
4 2つの度数分布多角形の形状のみを記述しているもの。(全国 4.7 千葉県 4.5)	
5 2つの度数分布多角形の山の高さの比較について記述しているもの。(全国 3.1 千葉県 3.3)	
6 上記5以外で、度数分布多角形について、最小値、最大値、最頻値など、ある点を比較して記述しているもの。(全国 5.8 千葉県 4.6)	
7 度数分布多角形の相対度数に着目して記述しているもの。(全国 8.1 千葉県 6.9)	
解答類型3～10は、一部誤った読み取りをしているもの	

判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにするには

体力テストの合計点の度数分布表



例) 分布の位置がずれていることが分かり、運動時間の目安を説明する際の根拠とすることができる。

- 二つの度数分布多角形の形や位置関係に着目して、二つの度数分布多角形における分布の特徴について話し合う。
- 見いだした分布の特徴から結論をいうためにふさわしい根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について説明する。

2 結果の詳細

(2) 質問紙調査

◆千葉県の子題…児童生徒質問紙調査・学校質問紙調査ともに、**肯定的回答の割合が全国に比べ低いものが多い状況**です。ここでは、**学習指導の改善・充実に関連する質問**を取り上げて課題を示しました。

◆質問紙の活用…**自校の肯定的回答を千葉県や全国と比較して、課題を明確にし、自校の実態に応じた対策を講じていくことができます。**この他にも、各項目のテーマを参考に、自校の実態を明らかにしていくことができます。

※質問事項の「児生」は児童生徒質問紙を、「学校」は学校質問紙を、数字は質問番号を表します。

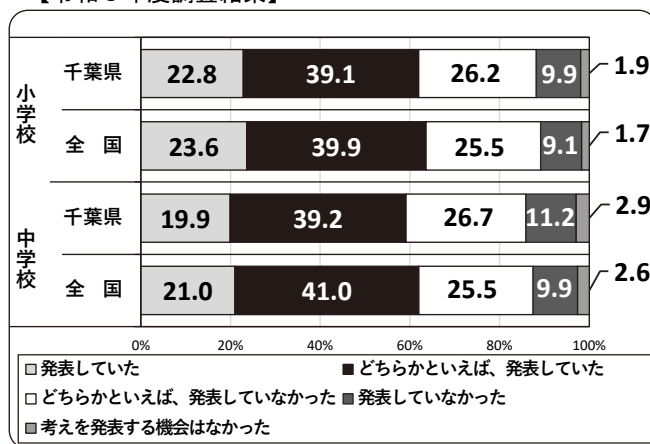
(本書「V 質問紙調査回答結果集計データ」参照)

①主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

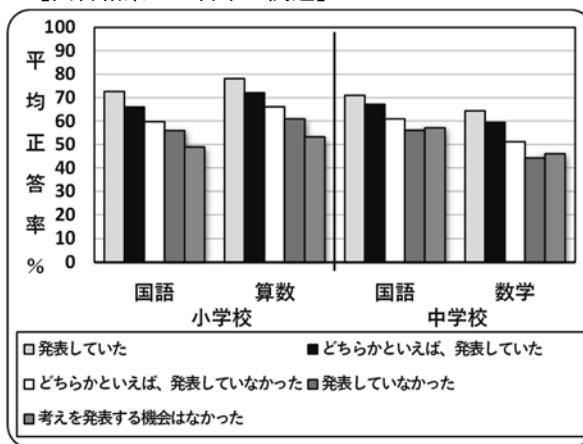
児童生徒 31～38、学校 29～40

【児生 3 2】前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

【令和3年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】

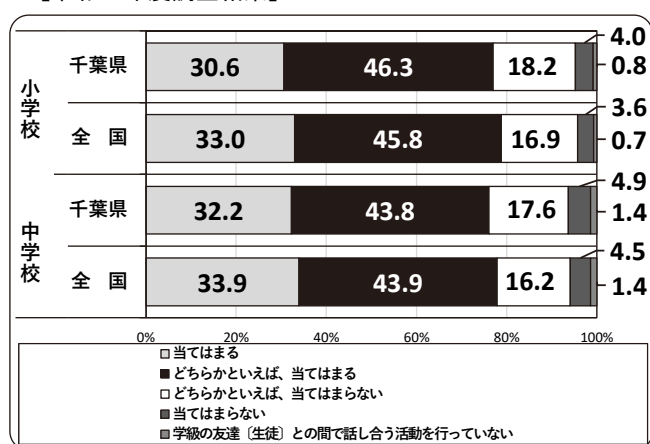


肯定的回答の割合が、小学校、中学校ともに、全国に比べ低くなっている。(自校…)

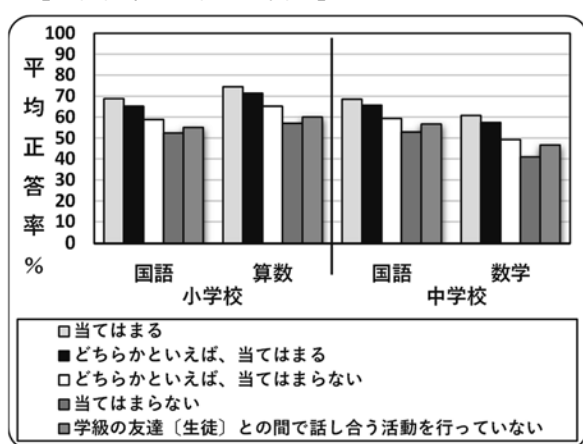
肯定的回答をしている児童生徒に、正答率が高い傾向がみられる。(自校…)

【児生 3 7】学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

【令和3年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



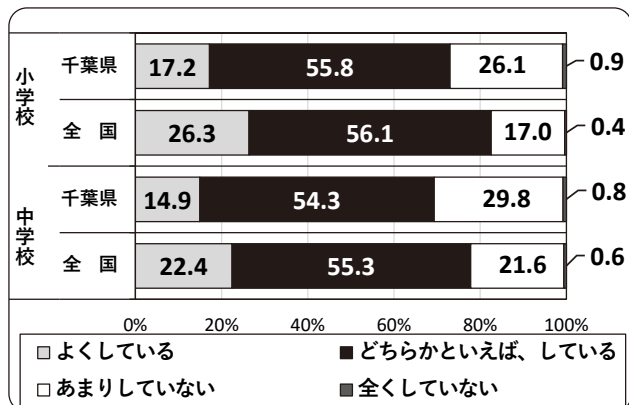
肯定的回答の割合が、小学校、中学校ともに、全国に比べ低くなっている。(自校…)

肯定的回答をしている児童生徒に、正答率が高い傾向がみられる。(自校…)

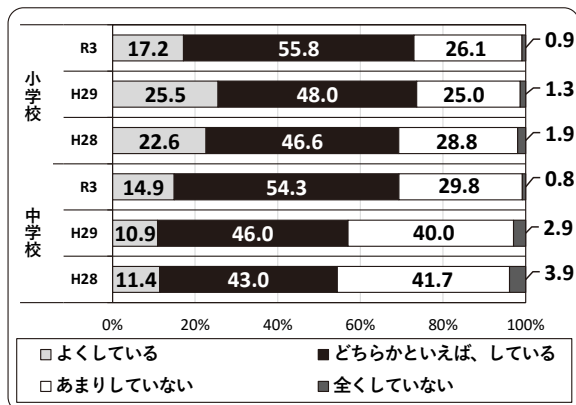
2 結果の詳細

【学校24】児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

【令和3年度調査結果】



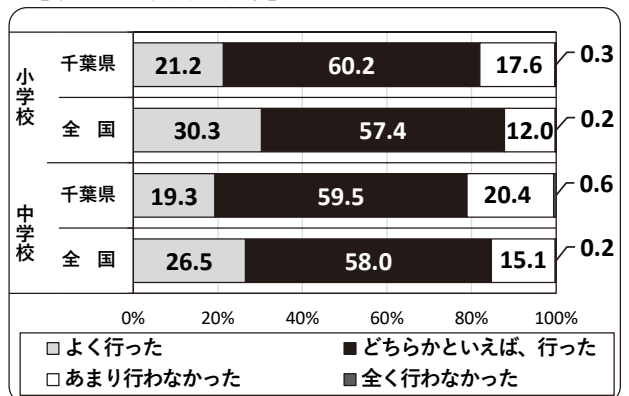
【経年変化】



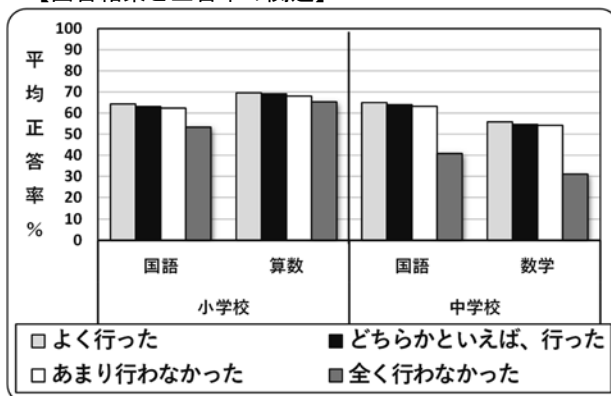
肯定的回答の割合が、小学校、中学校ともに全国に比べ低くなっている。（自校…）
 経年変化を見ると、肯定的回答の割合は小学校、中学校ともに増えている。（自校…）

【学校34】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

【令和3年度調査結果】

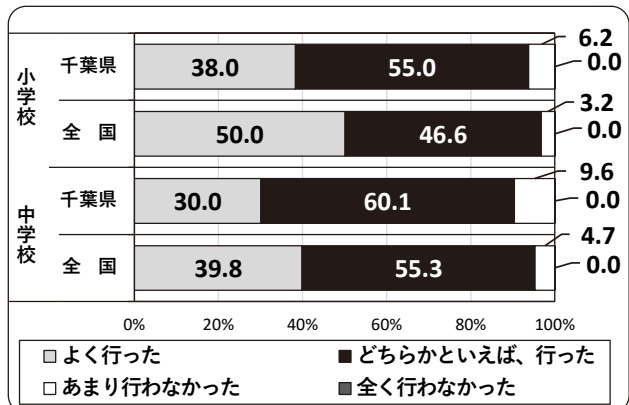


【回答結果と正答率の関連】

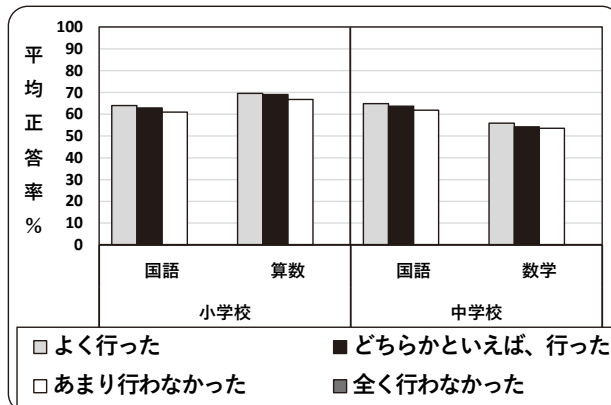


【学校35】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか

【令和3年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



話し合いや表現などの学習活動を授業に取り入れていることについて肯定的な回答をした学校は、小学校、中学校ともにおよそ80～90%であるが、全国に比べ低くなっている。（自校…）
 肯定的回答をしている学校に、正答率が高い傾向がみられる（学校34、35）。（自校…）

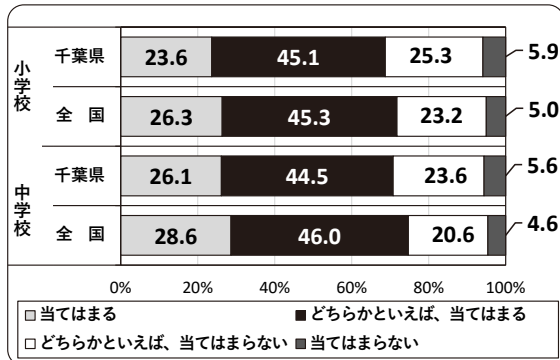
2 結果の詳細

②-1 国語科の指導方法に関する取組状況

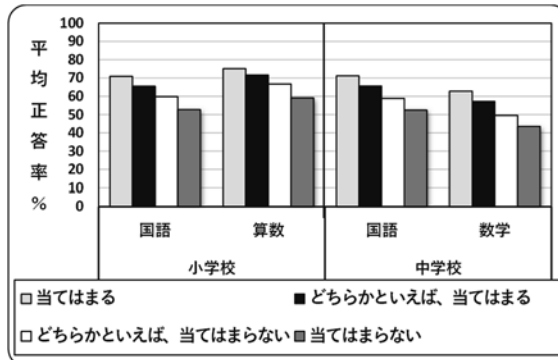
児童生徒 43～51、学校 49～54

【児生49】（児童）国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか
（生徒）国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか

【令和3年度調査結果】



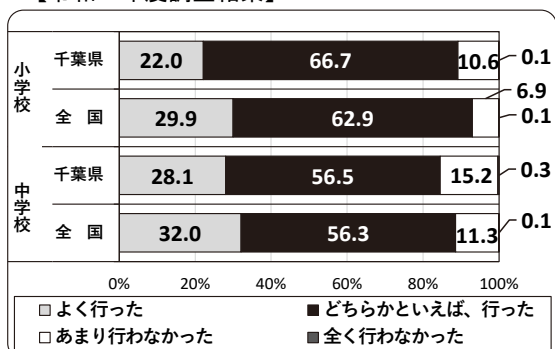
【回答結果と正答率の関連】



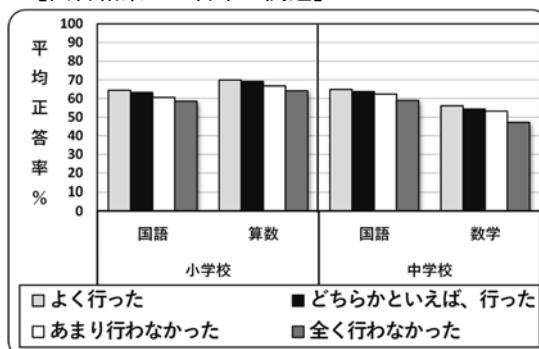
肯定的回答の割合が、小学校、中学校ともに、全国に比べ低くなっている。（自校…）
肯定的回答をしている児童生徒ほど、正答率が高い傾向がみられる。（自校…）

【学校52】調査対象学年の児童〔生徒〕に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか

【令和3年度調査結果】

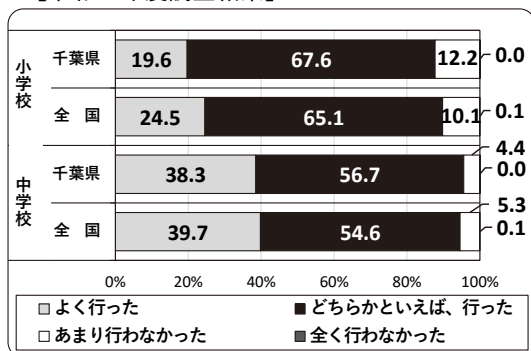


【回答結果と正答率の関連】

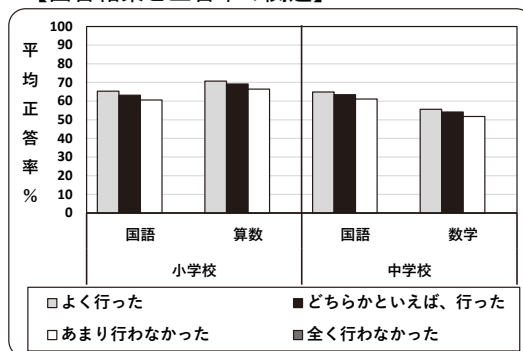


【学校53】（小学校）調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか
（中学校）調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか

【令和3年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答の割合が、小学校、中学校ともに、全国に比べ低くなっている。（自校…）
肯定的回答をしている学校ほど、正答率が高い傾向がみられる。（自校…）

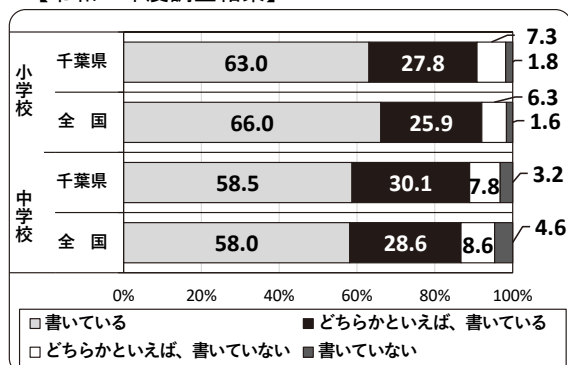
2 結果の詳細

②-2 算数・数学科の指導方法に関する取組状況

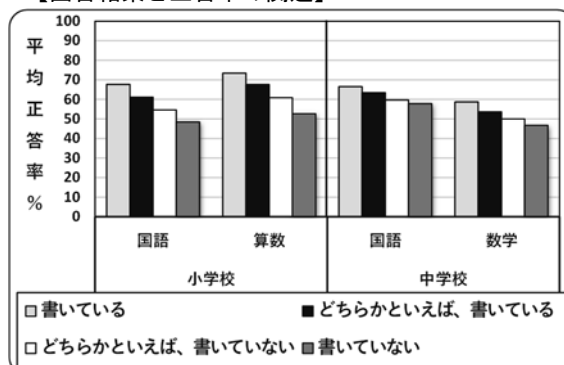
児童生徒 52～60、学校 55～60

【児生59】算数〔数学〕の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

【令和3年度調査結果】



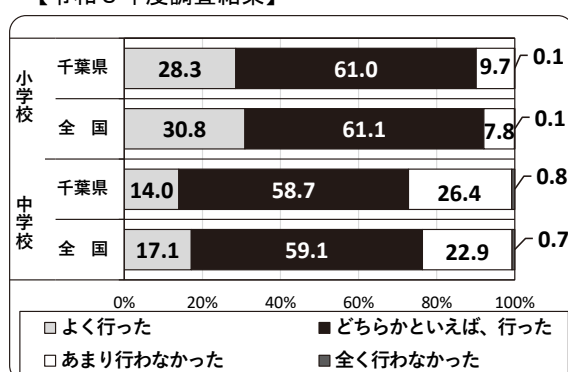
【回答結果と正答率の関連】



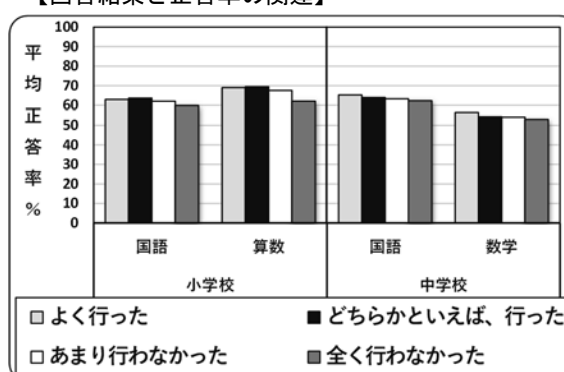
肯定的回答の割合が、小学校では、全国に比べ低くなっている。（自校…）
 肯定的回答をしている児童生徒ほど、正答率が高い傾向がみられる。（自校…）

【学校58】（小学校）調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか （中学校）調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行いましたか

【令和3年度調査結果】

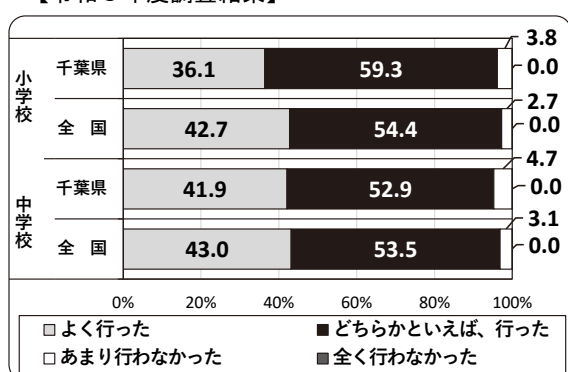


【回答結果と正答率の関連】

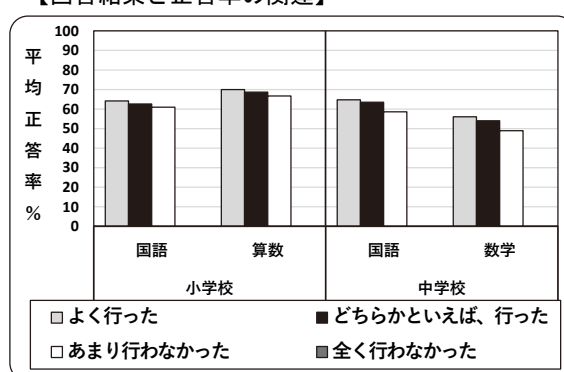


【学校59】（小学校）調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか （中学校）調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか

【令和3年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答の割合が、小学校、中学校ともに、全国に比べ低くなっている。（自校…）
 肯定的回答をしている学校に、正答率が高い傾向がみられる。（自校…）

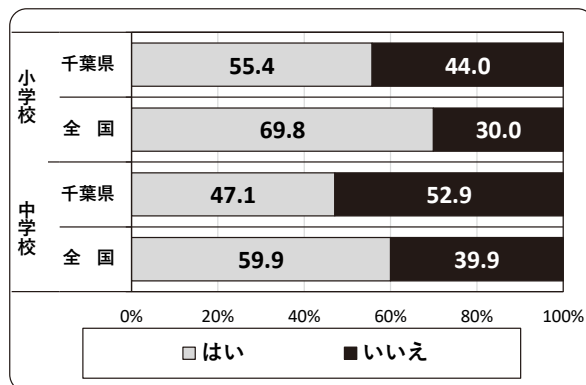
2 結果の詳細

③ 全国学力・学習状況調査の結果等の活用に関する取組状況

学校 88-1～9、89、90-1～7、91

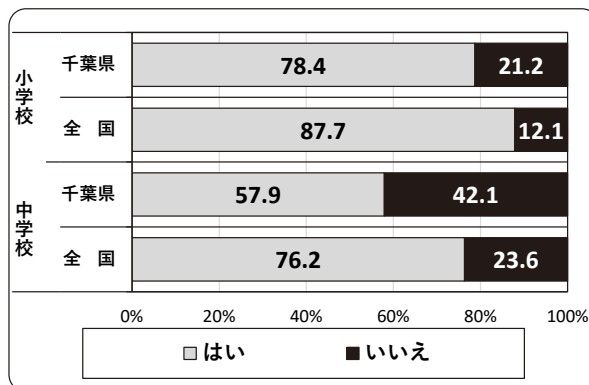
【学校 88-4】全国学力・学習状況調査の問題（教科に関する調査）を具体的にどのように活用していますか
④問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行っている

【令和3年度調査結果】



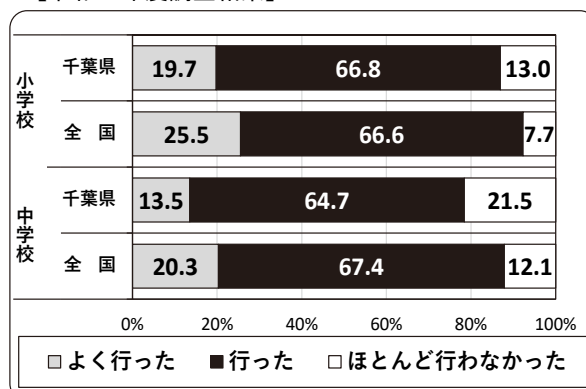
【学校 90-7】全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、具体的にどのように活用していますか ⑦課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用している

【令和3年度調査結果】

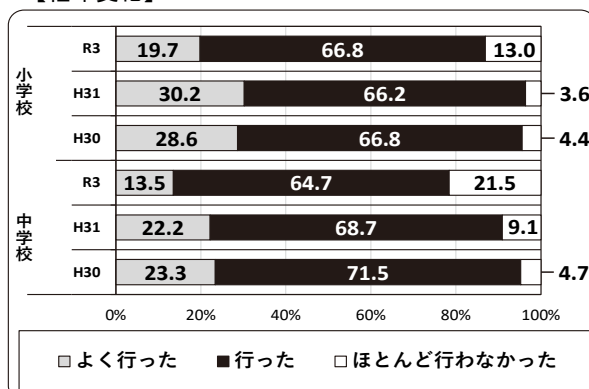


【学校 89】平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

【令和3年度調査結果】

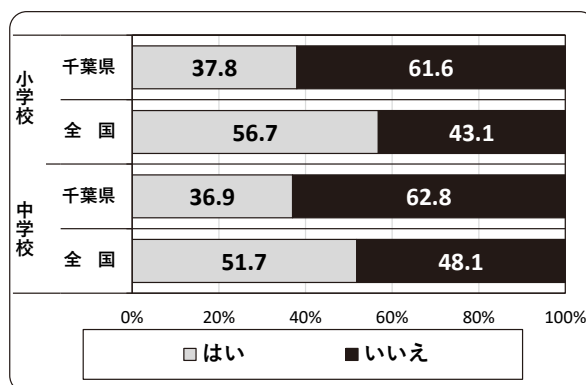


【経年変化】



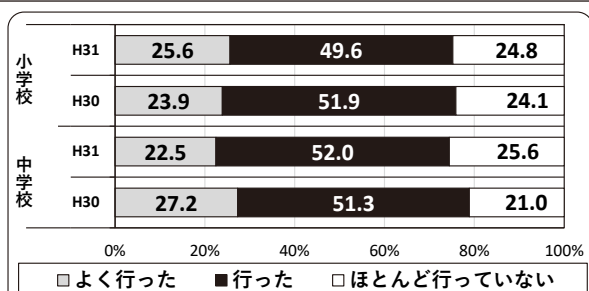
【学校 90-6】全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、具体的にどのように活用していますか ⑥保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している

【令和3年度調査結果】



【経年変化】（参考）

（前年度の）全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）



全国学力・学習状況調査の問題の活用についての質問（88-1～9）と、結果の活用についての質問（89、90-1～7、91）において、肯定的回答の割合が、小学校、中学校ともに全国に比べ低くなっている。（自校…）